

2016年5月30日 「救国救世の基台を創ろう」 石川祐司教会長

<訓読のみ言>

『真の父母經』

第六篇 世界巡回と世界宣教 第二章 真の父母様のアメリカ摂理と巡回講演

第五節 アメリカ建国二百周年の記念大会

2.ヤンキー・スタジアム大会で、お父様が失敗するか成功するかという問題は、宇宙史的な意義があります。これは、神様とイエス・キリスト、また、キリスト教はもちろん、全世界の人類と統一教会、そして、統一教会の文先生の命を懸けた闘いです。このようなことをサタンは知っているので、アメリカの言論機関と私たちに反対する人々を通して、私たちを攻撃するのです。お父様が幼い頃から願い、待ち望んだその日が、ほかでもない一九七六年六月一日です。

その日が来るのは、この上なくうれしいことですが、勝利できなければ、この上なく悲惨になるのです。そのため、その日は、うれしい日であると同時に恐ろしい日です。ですから、私が壇上で勝利の旗を立てるか、敗者の旗を立てるかが問題です。もし敗者の旗を立てるようになれば、統一教会が行く道と人類の前に、悲惨なことが起きるでしょう。そのようになれば、神様のみ前に私は顔を上げることができなくなるのです。

また、皆さんはもちろん、神様と霊界のすべての霊人たち、そして、全世界の宗教が、共産世界の侵略の嵐に見舞われ、やがてこの世界は荒地になり、今までの宗教はすべて消えてしまうでしょう。共産党に踏みにじられるというのです。そのようになれば、一九八〇年にならないうちに、アメリカもすべてひっくり返ります。このようなことを知っているので、私たちはヤンキー・スタジアム大会を中心とした歴史的な責任を背負い、この戦線に立ったのです。

3.統一教会の時代圏にも、蘇生時代、長成時代、完成時代があります。蘇生時代は父母様を中心とした家庭時代であり、長成時代は大韓民国を中心とした時代であり、完成時代は世界を中心とした時代です。第三次七年路程は完成時代に該当する時なので、世界的中心であるアメリカで決戦を行うのです。それが、ヤンキー・スタジアムを中心とした一九七六年六月一日の闘いです。サタン世界の六数を蕩滅し、七数に越えていく時だと考えるので、六月一日が良いとして、この日に決定したのです。